

1. タイトル

2019年度 小学校焼き芋大会

2. 参加人数

| 日付 | 人数 | 場所 |
|----------------|--|----|
| 2019年11月29日(金) | 130名:5年生(124)・教職員(6) | 松林 |
| 2019年12月6日(金) | 236名:6年生(125)2年生(82)※南組のぞく・教職員(9) 大学生(20) | |
| 2019年12月12日(木) | 110名1年生(112):4年生(92)※南組のぞく・教職員(9) | |
| 2019年12月13日(金) | 133名:2年南組(27)・3年西組・北組(56)・教職員(5) | |
| 2019年12月18日(水) | 110名:3年東組・南組(55)・4年南組(39)・教職員(5) | |

3. 活動内容

けやき循環プロジェクトの活動の一つである落ち葉集めで、大学生と小学生と一緒に集めた落ち葉や、各学級で集めた落ち葉を使用し、芋を焼く。芋を焼く際には、まず、学級ごとに落ち葉を燃やして灰にした「焼き床」を作る作業を行う。焼き床は担当する教職員によって形が異なり、馬蹄形・円・一直線と各教職員の長年の経験や知恵をもとに作られる。それぞれの焼き床に小学生が芋を投入し、再度落ち葉を積み上げて燃やしていく。芋を投入してから約2時間後、焼き芋が完成する。できあがってすぐのホクホクの焼き芋を食べているときの小学生の表情はとても微笑ましい。

4. (期待される)成果と(今後の)課題

焼き芋大会の最大の魅力は、大学生と小学生が交流しながら集めた学内の櫟の落ち葉を、燃やして芋を焼いている点と、芋を焼き終わった後に残った灰を、肥料として畑に撒いている点である。今後は、肥料を撒いた畑で芋を作り、それを焼き芋大会で使用することができたらより循環していくことができる。また、小学生は普段、日常生活の中で火に触れる場面がほとんどない。焼き芋作りの体験が貴重であるのと同時に、焼き芋大会を通じて、火の燃え方や扱いなどを学んでいくことはとても重要なことである。また2019年度は2年生および6年生が大学生と一緒に焼き芋大会を行った。しかし、大学の授業時間帯であることや、焼き床作り～焼き芋を食べるまでの過程が、3～4時間を要すことから、通しての参加が難しいことがわかった。したがって一つの案として、休日に小学生の希望者のみを集めて、大学生と一緒に焼き芋大会を開催することができれば、大学生も1日中参加することができ、一貫教育として意義のあるイベントになるのではないかと感じた。

